

資料3. 住民ワークショップの概要と結果

<ワークショップの趣旨>

住民のみなさんとともに、東浦町の資源となる景観を見つけて、分析することにより、景観形成の基本方針を検討するために開催しました。

<5回のワークショップの内容>

第1回	8月23日（金） 午後1時～5時	東浦町景観計画策定の概要説明 先進事例視察（半田市岩滑地区・半田運河地区） ※半田市職員の説明を聞きながら現地をみる。
講演会	9月7日（土） 午後1時30分～3時	東浦町景観づくり講演会 （仮題）景観づくりとまちづくり 岐阜大学 出村 嘉史 准教授
第2回	9月14日（土） 午前10時～12時	景観計画とは、景観の見方・捉え方（ミニ講座） 東浦町のよい景観・守るべき景観を探す。 ※地図・航空写真・資料を見ながら議論する。 ※第3回の現地調査のルートを考える。
第3回	10月5日（土） 午前10時～12時	景観を現場で確認する。 ※第2回で探した景観を現場で見る。 ※写真撮影、地図上に記録を残す。
第4回	10月26日（土） 午前10時～12時	景観資源マップを作成する。 ※よい景観・守るべき景観を地図に表現する。 ※アンケート結果やこれまでに議論による景観資源マップをもとに議論する。
第5回	11月30日（土） 午前10時～12時	東浦町の景観形成の基本方針を考える。 ※どのような景観を守り・育てるか。 ※住民として景観形成のために何をすべきか。

<ワークショップの進め方>

- 2グループに分かれて議論・検討を行いました。
- 各グループにファシリテーターがついて、住民のみなさんの話し合いを整理しました。
- 各回の最後に、グループごとの話し合いの成果を発表しあいました。

＜第1回ワークショップの結果＞（ワークショップだより）

東浦町景観計画策定の ワークショップだより

Vol.1(平成25年8月) 発行:東浦町建設部都市計画課



第1回ワークショップ ～半田市先進地視察～ を開催しました

身体にこたえる猛暑もようやく一段落しそうですが、いかがお過ごしでしょうか。

東浦町では、今年度と来年度の2ヶ年で、東浦町らしい景観を守り・育て・活かすための景観計画を策定していますが、その検討の場として町民ワークショップを設置し、各地区コミュニティ代表の6名と公募による6名の、あわせて12人でスタートしました。

8月23日（金）に第1回ワークショップが行われ、景観の取組みの先進地である半田市の半田運河周辺地区及び岩滑地区を視察しました。

- ①まずは、役場に集合。景観計画の策定やワークショップの開催主旨の説明を町から聞き、お互いに自己紹介しました。



- ②半田市役所に到着。半田市の担当の方から、半田市景観計画の策定の経緯や内容を丁寧に説明していただきました。

- ③景観形成重点地区のひとつである半田運河周辺地区を視察しました。運河と黒壁の蔵、町屋風の建物のまち並みを基本としたルールが設定されています。



- ④運河沿いの蔵や工場は、ルールに基づく建替えが進んでいました。まち並みの中の古い建物は、観光客向けの案内所として利用されていました。

⑤続いて、もう一つの景観形成重点地区の岩滑地区を視察しました。岩滑は新美南吉が生まれ育った地区であり、南吉童話にもその風景が描かれています。



⑥岩滑地区には農村集落の趣きを保全するためのルールが設定されています。市民にルールを理解してもらうための苦労や課題について、半田市の方が教えてくれました。

⑦とても暑い中での視察でしたので、みなさんお疲れぎみでしたが、帰りのバスの中では、視察の感想やワークショップへの期待などを書いていただき、無事終了しました。



《ワークショップ参加者のみなさんによる視察の感想（抜粋）》

- 半田市の方の説明で景観形成のイメージがわかった。景観は長い年月がかかると思った。
- 半田市の方が理想と現実の厳しさも話してもらえて参考になった。
- 話題の場所を見学できてよかった。
- 特定のエリアに限定して計画を作成するのもよいと思った。
- 景観づくりは非常に難しい。地区指定しても守られないことがあるようだ。
- 景観を損なわない建物をどうやって建ててもらおうかということが大変だと思った。
- 「景観のあるべき姿」を過去に考えたことがなく、どんな点が問題なのかまだよく判らない。
- 権利の制限と個人の自由の範囲がむずかしいと思う。

《今後の予定》

【景観講演会】9月7日（土曜日） 13時30分から15時

勤労福祉会館 会議室C

『景観と私たちの暮らし』 岐阜大学准教授 出村嘉史さん

【第2回ワークショップ】9月14日（土曜日） 10時から12時

東浦町役場 西会議室1

『東浦町のよい景観・守るべき景観を探す』



景観講演会開催報告



平成 25 年 9 月 発行:東浦町建設部都市計画課

景観講演会「景観と私たちの暮らし」を開催しました。

東浦町名産のぶどうの出荷が最盛期を迎えていますが、いかがお過ごしでしょうか。

住民の皆さんに景観への関心を持っていただくため、9月7日（土）に勤労福祉会館で、岐阜大学工学部准教授の出村嘉史さんをお招きして、景観講演会を開催しました。

- ①講演会は、神谷町長のあいさつからはじまりました。東浦町には特別な史跡や町並みがある訳ではないが、町内に入ると「何かが違う」と感じるまちにしたい。そのためには町が景観を決めるのではなく、住民の皆さんが考えてほしい、という話がありました。



- ②続いて、出村先生の講演、演題は「景観と私たちの暮らし」。講演では「景観とは何か、なぜ景観か」「公共、共有という考え方」「私たちの居場所について」「ここで豊かに暮らすために」という内容をお話いただきました。日本や海外の事例、東浦町の写真も使って、とてもわかりやすい講演でした。景観づくりのヒントとして、下記の事をお話いただきました。



- 次世代に生き残るための町の風景をつくる。
- すでにある資源を資本に、いかに暮らすか、意思を示す。
- どこから何をみるかを考える。（視点場と視対象）
- 人の居場所はどこにあるかを考える。
- 人はどこを歩くのかを考える。

- ③講演の後に、参加者の皆さんとの意見交換、質疑応答がありました。景観計画の策定の意義、計画策定のプロセスの大切さ、東浦町の景観における農地や農業の大切さなどの意見交換がされました。



＜第2回ワークショップの結果＞（ワークショップだより）

東浦町景観計画策定の

ワークショップだより

Vol.2(平成 25 年 9 月) 発行:東浦町建設部都市計画課



第2回ワークショップを開催しました。 ～東浦町の「よい景観」「大切にしたい景観」を考える～

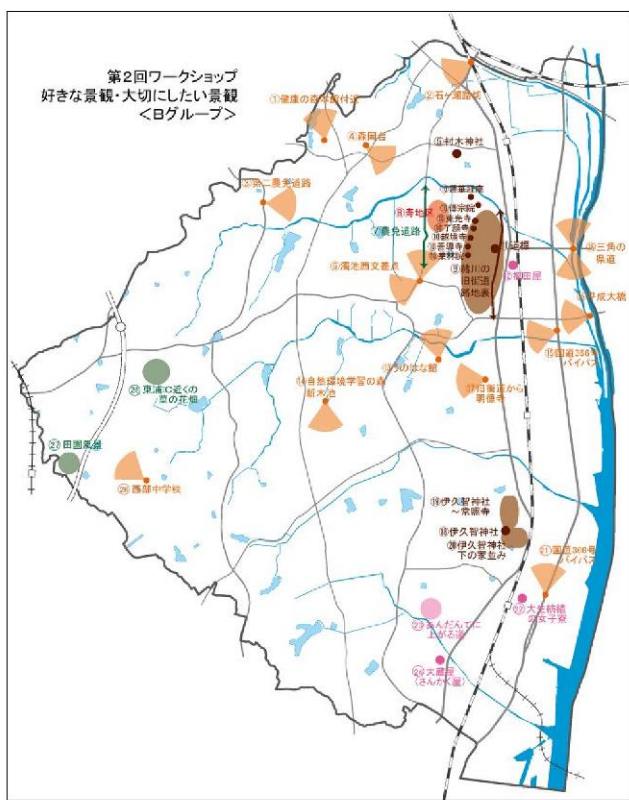
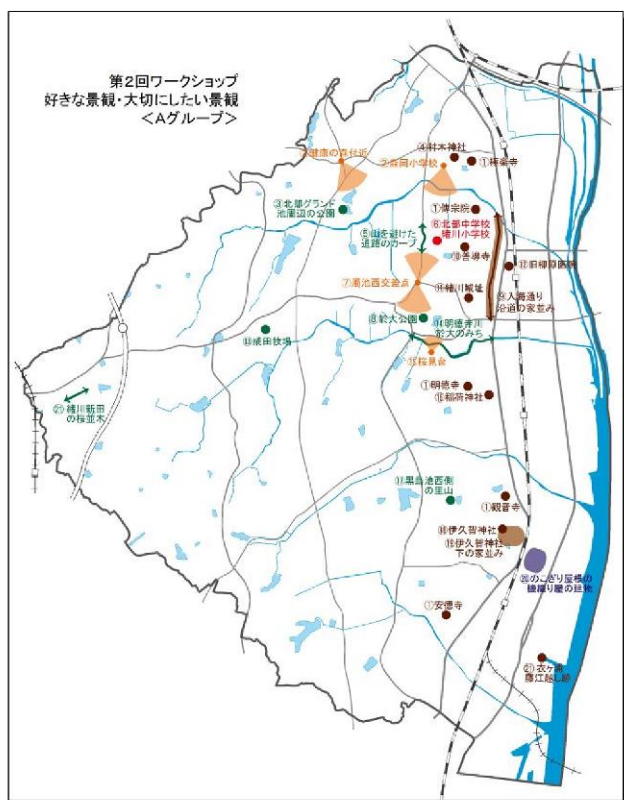
秋の気配を感じるようになってきた一方で、台風などによる大雨にも時折見舞われますが、みなさまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

「東浦町景観計画策定のワークショップ」は、9月14日に第2回目を開催しました。今回から新しいメンバーも加わり、14名の方に集まっていただきました。

今回は、2つのグループに分かれて、東浦町の「よい景観」「大切にしたい景観」を参加者のみなさんに出していただき、意見交換しました。住民の方ならではの、生活に密着した身近な景観に対する想いをたくさん出していただきました。意見の一部を紹介します。

景観・場所	よいと思う理由、大切にしたい理由
健康の森付近から北部中学校付近を眺める	昔から遊んでいた岡田川から北部中学校に向かうなだらかな緑の丘の景色に癒される。
北部グラウンドと周辺の公園	とても癒される景色。釣り場所としても最高。
寿一区、寿二区	北部中学校から森岡台をみる。多くの人の散歩道、中学生の通学路。
村木神社	村木砦における天下分け目の戦いを感じたい。しだれ桜。
北部中学校西側の曲った道	カーブが非常に印象的で面白い。
東浦名古屋線に町道がぶつかる濁池西交差点	健康の森方面の眺望。冬の空気の澄んだ日には雪をかぶった山が美しい。
入海神社通りと沿道の家並み	瓦の切妻屋根、黒い杉板の下見板張り、郷倉なども多く、残したい。
緒川の道標	知られていない。
明德寺川の散歩道（於大のみち）	四季の花、鳥、魚などの自然、生き物が感じられる。
自然環境学習の森、新池から南方向の里山風景	昭和 30 年代の昔の里山を思い出し、ほっとする空間。
緒川三角の県道から境川上流と下流	未開拓の感じ、北の葦のある水面の風景。
国道 366 号バイパス	御岳山がクローズアップされたように見える。
各地区の神社	境内は祭りなどの地区の行事、子どもの遊び場であり、地区の中心。
伊久智神社の下の家並み	狭い道と黒い家並みが落ち着く。
大生紡績の女子寮	女子寮は誰も入っていないが、昔の景観が保たれている。
大蔵屋（通称：さんかくや）	ボタン、糸からビール、たばこ、文房具も売っている。
衣ヶ浦 藤江越し跡	とても可能性のありそうな場所。
緒川新田の JA 東側の桜並木	とてもきれいな並木道。
西部中グラウンド裏から里山風景	草をかきわけていける。野鳥観察会で歩いた里山。

ワークショップの最後には、グループごとに参加者の代表の方に、意見交換の結果を発表していただきました。みなさん、とても想いを込めてお話ししていただきました。



第3回では、グループごとに、「よい景観」「大切にしたい景観」として出された場所を実際に見に行き、現場でどのような取組みをすべきかを考えます。

「今後の予定」

【第3回ワークショップ】10月5日（土曜日） 10時から12時

「東浦町のよい景観・大切にしたい景観を見に行く」

東浦町役場西会議室に集合してから、現場に出掛けて行きます。

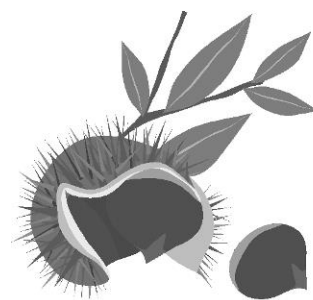


＜第3回ワークショップの結果＞（ワークショップだより）

東浦町景観計画策定の

ワークショップだより

Vol.3(平成 25 年 10 月) 発行:東浦町建設部都市計画課



**第3回ワークショップでは、
「よい景観」「大切にしたい景観」と考える現場に行きました。**

東浦町でも各地区で秋の祭礼がおこなわれています。食べ物もおいしい季節になっていますが、みなさまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

「東浦町景観計画策定のワークショップ」は、10月5日に第3回目を開催しました。

今回は、第2回でグループごとに出していただいた東浦町の「よい景観」「大切にしたい景観」を、現場に見に行きました。東浦町内といえども、初めて行った場所、初めて見た景観も多く、参加者のみなさんは、東浦の景観の多様さを改めて認識されたようでした。

＜Aグループが見学した場所＞

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| ○衣ヶ浦藤江越し跡（藤江） | ○村木神社（森岡） |
| ○緒川界わい散策（入海神社・傳宗院・東光寺・了願寺・緒川城址など） | |



衣ヶ浦藤江越し跡



森岡の村木神社



緒川の町並み（入海神社の通り）



緒川の路地（入海神社の裏あたり）



緒川の町並み（字屋敷貳区あたり）



緒川城址

＜Bグループが見学した場所＞

- | | | |
|------------------------|--------------------|------------------|
| ○寿地区（緒川） | ○森岡界わい・緒川界わい（車窓から） | ○国道 366 号バイパスの眺め |
| ○大生紡績旧女子寮・伊久智神社界わい（生路） | ○藤江界わい（大蔵屋周辺） | |



寿地区から北部中学校方面の眺め



国道 366 号パイパスからの眺め



生路の大生紡績旧女子寮



伊久智神社（境内と大楠の森）



藤江の須賀川



藤江の大蔵屋（字松本あたり）

＜参加者のみなさんの主な感想・ご意見（抜粋）＞

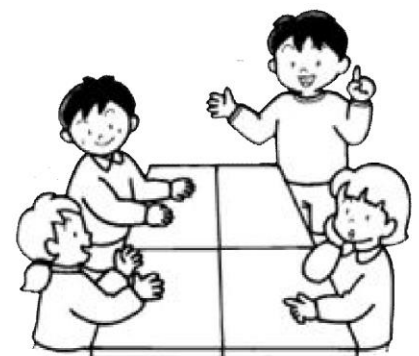
- ・車で通りすぎるのではなく、歩いて見てみると改めて良さを感じる。
- ・景観を守る場所を決めないとどんどん消えていきそう。
- ・残さなくてはならない大事なものがたくさんあると思った。
- ・古い家、細い道など意外と情緒ある。
- ・景観の良さを共有するため、フォトコンテスト等を企画してPRしたらどうか。
- ・村木神社の石垣が木の根の影響で崩れかけていることが心配。
- ・緒川界わいで廃墟が増加している点が気になった。
- ・緒川城址について何か活用できないか。
- ・北部中方向の眺望は良いが、開発がされると景観が損なわれてしまうのではと心配。
- ・伊久智神社は、日ごろの手入れが行き届いていると思う。大楠は是非残していきたい。
- ・大生紡績の 2 階建女子寮の建物は、歴史遺産として移築、保全が考えられないか。
- ・紡績業の遺構を保存するための活動ができないか。町として記念館とするとか。
- ・藤江越し跡に廃船が数隻放置されている点が気になった。
- ・通過者にとっての良否よりも、地域住民としての視点が大切だと思う。

第4回では、参加者のご意見や住民アンケートの結果などから、東浦町の景観資源マップをつくとともに、東浦町の景観形成の基本方針をみなさんと考えます。

＜次回の予定＞

【第4回ワークショップ】

10月26日（土曜日）10時から12時 東浦町役場西会議室
「景観資源マップをつくる」「景観形成の基本方針を考える」



＜第4回ワークショップの結果＞（ワークショップだより）

東浦町景観計画策定の ワークショップだより



Vol.4(平成25年11月) 発行:東浦町建設部都市計画課

第4回ワークショップでは、東浦町の景観資源図を検討し、 景観づくりの基本方針について話し合いました。

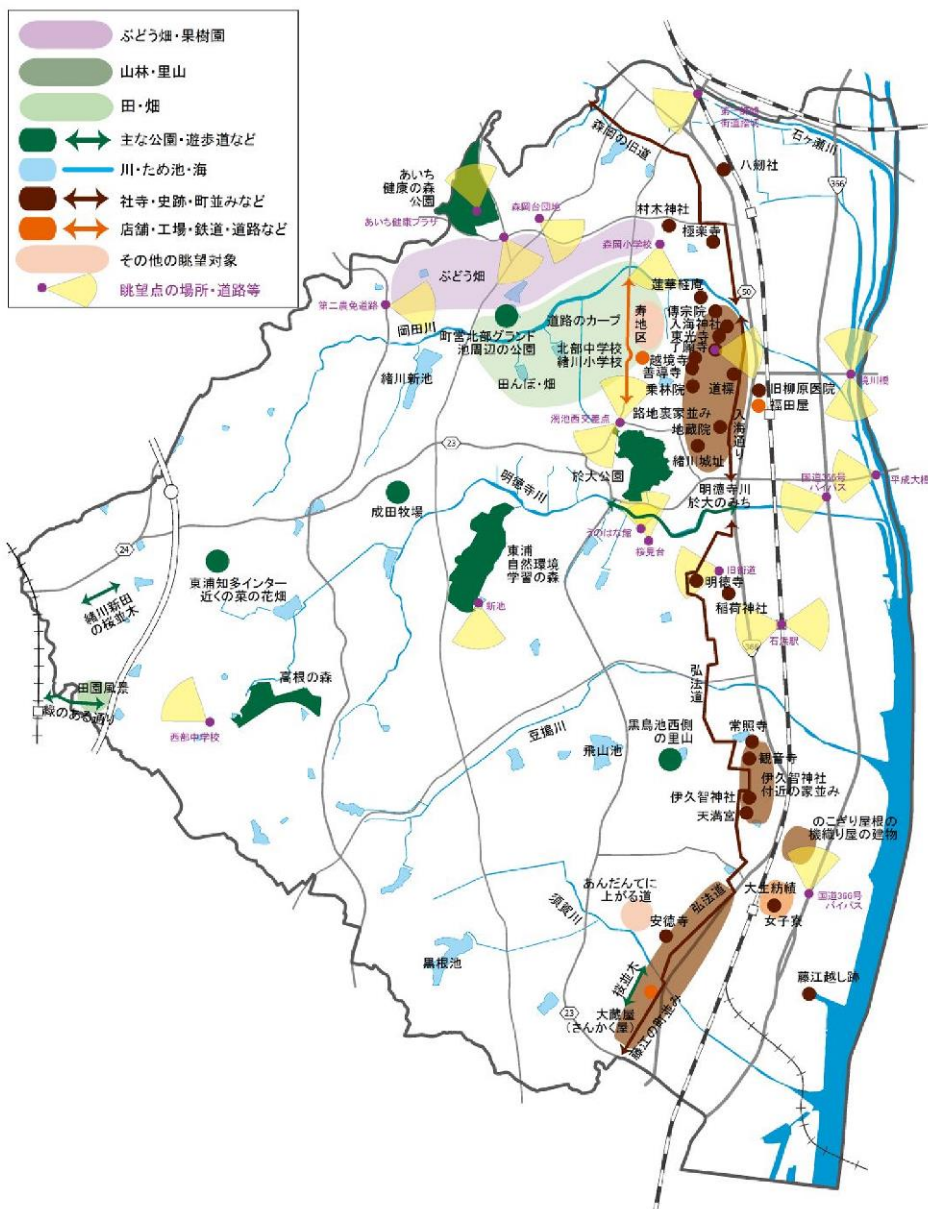
今年は寒さが急にやってきましたが、体調などを崩されてはいませんか？

「東浦町景観計画策定のワークショップ」は、10月26日に第4回目を開催しました。

今回は、これまでの意見交換や現地のまちあるき等をふまえて、グループごとに「景観資源図」を作成しました。また、東浦町の景観づくりをどのような考え方で行うべきかについて話し合いました。

参加者のみなさんの、東浦町に対する想いや愛着が強く感じられる意見も多く、景観づくりの重要性が改めて感じられました。

＜ワークショップの意見 による景観資源図＞



＜景観づくりの基本方針に対する主な意見＞

東浦町が景観づくりに取り組む目的	○東浦を自慢したくなる景観づくり。東浦への誇りや愛着を育む景観づくり。 ○東浦に住みたくなる、住み続けたい景観づくり。 ○子どもや孫に東浦の自然や歴史を伝え残す景観づくり。 ○東浦町の持続的な発展に貢献する景観づくり。 ○住む場所として魅力が高まる景観づくり。 ○東浦にふるさと感じる景観づくり。 ○歩いて楽しめる景観づくり。
東浦においてどのような景観づくりを行うべきか	○6つの地区ごとの拠点の景観を大切にする。 ○東浦にしかないものを景観づくりを通じて感じ取ってもらう。 ○グラデーションのある景観づくり。 ○緑豊かな自然と調和した景観づくり。 ○歴史を感じる景観づくり ○まちなかの小さなホッとする景観を保全する。 ○観光資源としての景観づくりを行う。
東浦における景観づくりのポイント	○すべての住民が景観を自分ごとで考える。 ○景観を守りたいという想いを育てる。 ○子どもや住民が景観づくりへの関心を持つための取組み。 ○自然での遊び方を教えながら、子どもたちに東浦の景観を伝える。 ○景観資源だけではなく、景観資源の周りを保全。 ○住民が入ることができる里山づくり。 ○古きを活かしたまちの再生（空き家を拠点施設として活用） ○緑の多い住宅地づくり。1人1本ずつ植栽する。 ○自然と共生し、里山や公園をネットワークさせる。 ○神社・寺院などの歴史資源を保全する。 ○昔のよいものを残しながら、現代風に活用する。 ○景観づくりを商店や商業の活性化につなげる。 ○観光振興と連携する。 ○景観に関する情報を発信する。景観づくりに取り組んでいる人をつなげる。 ○季節ごとの花や植物の見どころをつくる。 ○居心地のよい景観の視点場を整備する。
景観計画に記載すべきこと	○景観づくり、景観を守るステップ。 ○景観資源を維持・保全・管理する手法。 ○景観づくりや景観保全に住民が関わるしくみづくり。 ○住民が東浦のよさに気付くためのしかけづくり。 ○東浦で大切にしたいゾーンを決める。

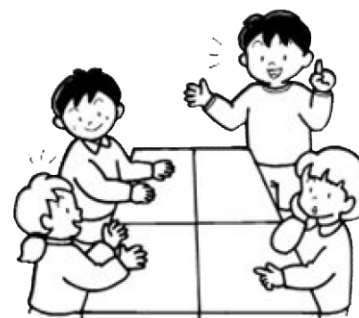
第5回は最終回となり、これまでの議論を踏まえ、景観資源図と景観づくりの基本方針案をとりまとめて、東浦町に提案します。

＜次回の予定＞

【第5回ワークショップ】

11月30日（土曜日）10時から12時 東浦町役場西会議室

『景観資源図と景観づくりの基本方針案をとりまとめる』



＜第5回ワークショップの結果＞（ワークショップだより）

東浦町景観計画策定の

ワークショップだより

Vol.5（平成25年12月）発行：東浦町建設部都市計画課



第5回では、ワークショップからの提案による 景観構造図と景観資源図を作成しました。

「東浦町景観計画策定のワークショップ」は、11月30日に第5回目を開催しました。

今回は、これまで検討してきた景観構造図と景観資源図をみなさんで仕上げて、町に提案していただきました。また、今後の景観づくりの方針やアイデアについて意見交換していただきました。

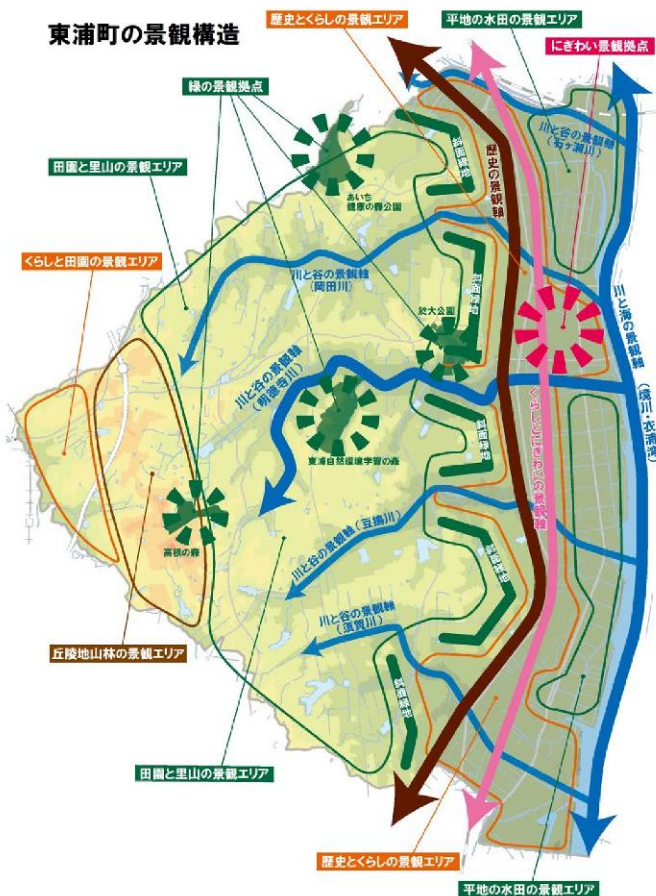
5回のワークショップを通じて、参加者のみなさんには景観づくりの重要性を認識していただき、今後、住民を広く巻き込みながら、着実に進めていって欲しいとの意見をいただきました。

ワークショップの最後には神谷町長も参加し、景観づくりへの想いを皆さんと意見交換しました。

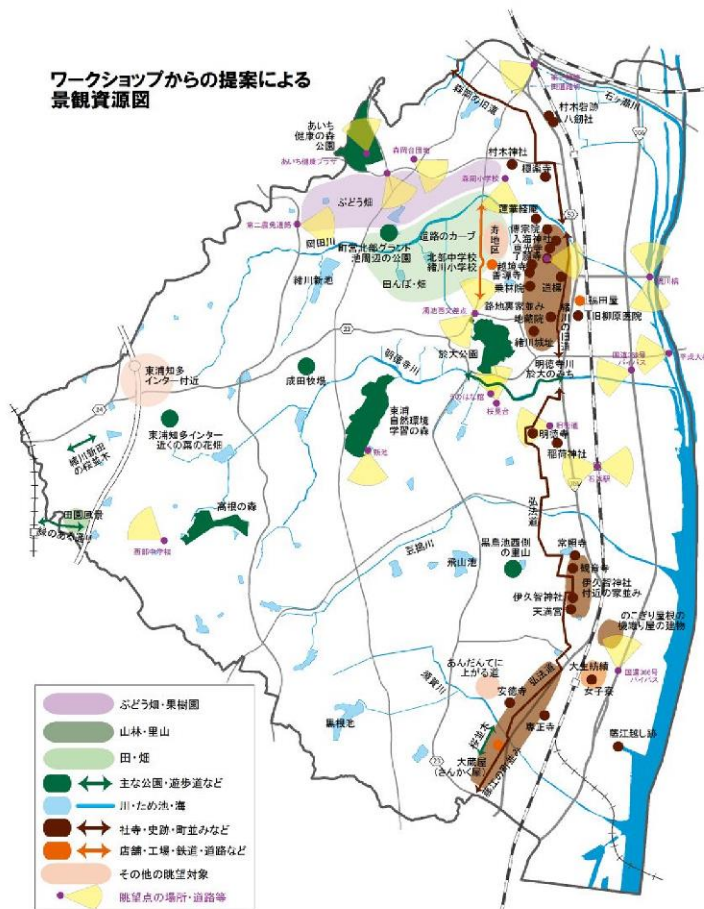
＜ワークショップ提案の「景観構造図」＞

＜ワークショップ提案の「景観資源図」＞

東浦町の景観構造



ワークショップからの提案による 景観資源図



＜今後の東浦町の景観づくりに対する意見・提案＞

景観づくりの考え方	◆田園景観より、里山などの自然を大切にするということを強調したい。 ◆目に見える景観資源だけではなく、古い地名なども伝え残していきたい。 ◆景観形成により、東浦町の産業構造が見えるものにしていきたい。 ◆町並みの空き家は、家主との関係から難しい面もあるが、「残したい」「活用した」という町民の想いは明確にしておく必要がある。 ◆空き地・空き家は、地域では負の側面もあるため、これを踏まえた対応を考えたい。 ◆将来的に町外から東浦に新しい人が移り住んだ時に、潤いを感じられる景観にしたい。 ◆じっくりと腰を据えて景観づくりに取り組むことが必要だが、ひとつひとつ着実に取り組むようにしていきたい。 ◆景観づくりには草刈り、落ち葉拾い、ゴミ掃除など、地味な作業も大切である。現在も地域の人が苦労しながら景観が維持されており、このことも表現していきたい。 ◆景観づくりを通じて、東浦に対する住民ひとりひとりの意識を濃くしていきたい。
景観計画の考え方	◆大切に残したい景観資源が失くなっている現状がある。景観計画において残したい根拠やポイントを明確に記載したい。 ◆住民の「保全したい」の想いを景観計画で表現したい。 ◆明徳寺川を守る取組のように、住民の取組みや組織が大切であることを強調したい。 ◆景観づくりが現状維持優先で、今後新しいまちづくりができないような印象にならないように、うまく表現していきたい。前向きで夢のある景観計画にしたい。 ◆名古屋に近く暮らしやすい街なので今後もしばらく人口増になると思うが、無秩序な開発にせず、景観のよい質の高い住宅地を誘導したい。 ◆今回の WS のメンバーだけではなく、多くの人の意見を取り入れる機会が必要だと思う。居住地として、東浦に住んでいる人の意見を大切にしたい。
景観づくりの基本理念	◆東浦町の特有の地名やキーワードを入れながら、想いを込めたタイトルをつけたい。（オニバス、オオタカ、カワセミ、野生の残る自然、里山、於大の里・・・） ◆自然・田園・歴史や新しい街が、コンパクトにまとまっていて、近くでいろいろな景観資源に出会えるという、東浦の景観の特徴を入れたい。

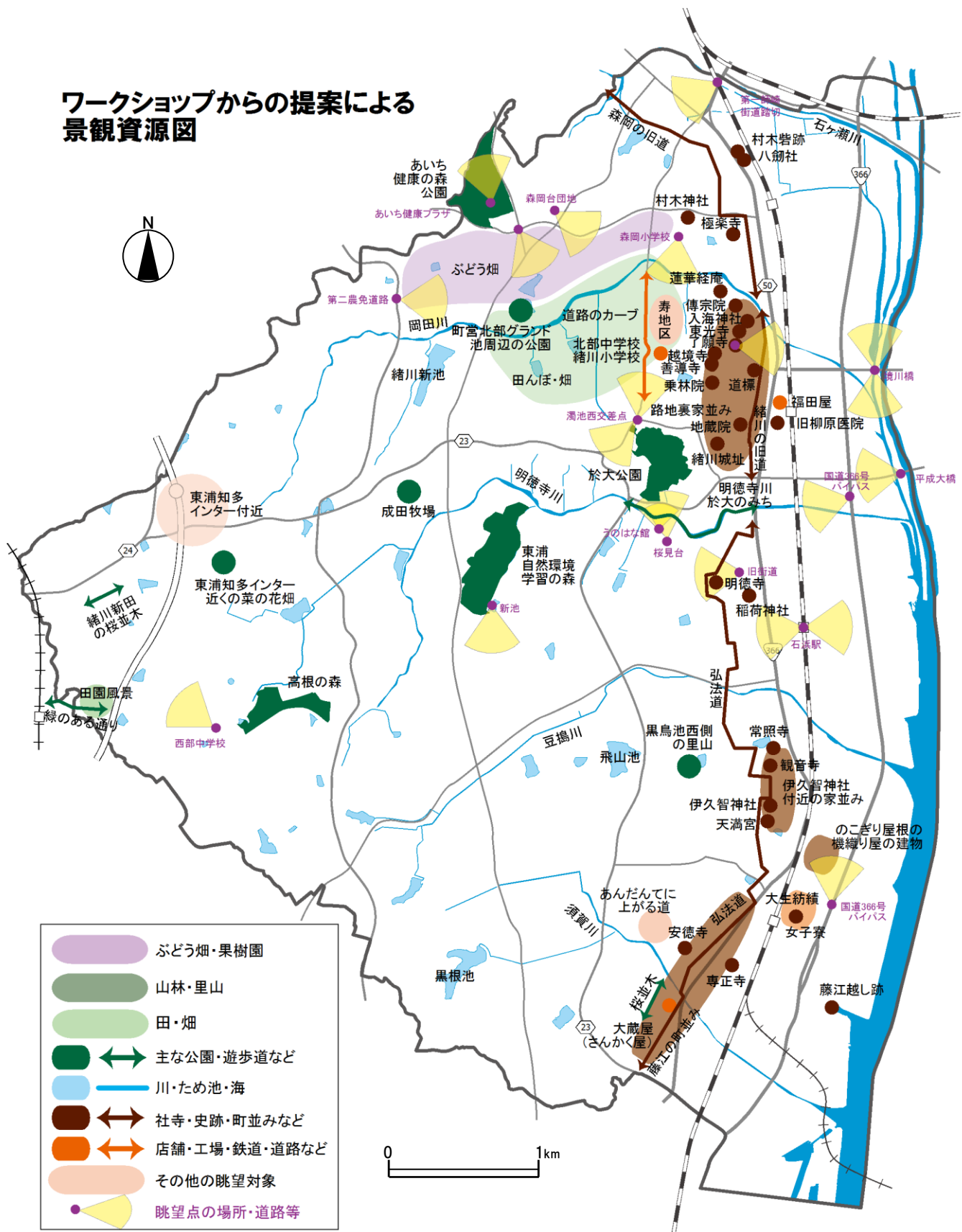


＜今後の予定＞

- 今回のワークショップからの提案を踏まえて、3月までに「景観計画中間報告書」をとりまとめます。
- 平成26年度には、住民の代表者や有識者により検討委員会を設置し、「東浦町景観計画」を策定し、景観づくりをスタートさせます。

<第5回ワークショップの結果>（景観資源マップ）

ワークショップからの提案による
景観資源図



＜第5回ワークショップの結果＞（景観形成の基本方針案）

＜東浦町の景観づくりの理念・テーマ＞

【案1】 東浦を自慢したくなる、東浦への誇りや愛着を育む景観づくり

【案2】 東浦に住みたくなる、住み続けたくなる景観づくり

【案3】 子どもや孫に東浦の歴史や自然を伝え残す景観づくり

＜東浦町の景観づくりの基本方針＞

【地形と景観軸】 地形の変化と景観構造をふまえた景観づくりを行う。

【自然】 里山・田園風景・ぶどう畑などの自然の景観を大切にする。

【歴史】 歴史資源を大切にし、東浦の成立ちを感じる景観づくりを行う。

【住宅地の景観】 魅力を高める住宅地の景観づくりを行う。

【歩行と視点場】 歩いて楽しめる景観づくり、居心地のよい視点場づくりを行う。

【地区ごとの景観づくり】 各地区の特徴的な景観を大切にする。

【身近な生活景観】 まちなかの小さなホッとする景観を大切にする。

【住民主体の景観づくり】 すべての住民が景観づくりに関わる。

＜景観づくりのポイント・手法のアイデア＞

○東浦で大切にしたい景観ゾーン、各地区で大切にしたい景観資源を決める。

○景観資源とあわせて、景観資源の周りを一体的に保全する。

○古きを活かしながらまちを再生する。

○緑の多い住宅地づくりを行う。

○季節ごとの花や植物の見どころをつくる。

○里山や公園をネットワークさせる。

○景観づくりを商店や商業の活性化、観光振興につなげる。

○景観づくり、景観を守るステップや手法を伝える。

○景観づくりや景観保全に住民が関わるしくみをつくる。

○すべての住民が景観を自分ごとで考える。

○子どもや住民が景観づくりへの関心を持つための取組みを行う。

○景観に関する情報を発信する。景観づくりに取り組む人をつなげる。